



特定非営利活動法人 日本歯周病学会

2024 年 第 2 号 (9 月)

ニュースレター

〒 170-0003

東京都豊島区駒込 1-43-9 (一財) 口腔保健協会内

TEL : 03-3947-8891 FAX : 03-3947-8341 <http://www.perio.jp/>

発行人 沼部幸博

編集 広報委員会

【主要コンテンツ】

追悼：角田正健先生 春季学術大会関連のご案内 日本歯科専門医機構報告
学会プロモーション活動 秋季総会のお知らせ 各賞募集・選考結果

国際交流委員会から



国際交流委員会委員長
吉村篤利

2024 年度の国際交流委員会の活動と活動計画について報告させていただきます。2019 年 12 月に始まった COVID-19 の世界的大流行も収束して約 1 年前に 5 類感染症に移行し、国際交流活動が再開されています。第 67 回春季学術大会の International Session においては、中国、韓国、タイ、ネパールから各 1 名の若手研究者が国内からの 2 名の研究者とともに発表を行いました。第 67 回秋季学術大会では、中華口腔医学会歯周病学専門委員会 (CSP) の Yitong Liu 先生の招待講演が行われる予定です。

10 月 19, 20 日にソウルの SC Convention で開催予定の第 64 回韓国歯周病学会 (KAP) General Session では、日本歯周病学会 (JSP) の沼部幸博理事長の特別講演、ならびに JSP 会員の International Session 口演・ポスター発表が行われる予定です。

CSP 関連では、6 月 19, 20 日に西安市で開催された第 16 回 CSP Anniversary Meeting において、JSP の小方頼昌前理事長の招待講演が行われました。Asian Pacific Society of Periodontology (APSP) 関連では、第 15 回 APSP 国際会議が 10 月 17, 18 日にベトナム・ハノイで開催されます。日本からは青木 章先生が招聘演者として講演されます。

また、第 110 回アメリカ歯周病学会 (AAP) 年次大会が、10 月 31 日～11 月 3 日にアメリカ・カリフォルニア州サンディエゴにて、JSP と日本臨床歯周病学会 (JACP) との共催で開催されます。大会期間中は、複数の JSP, JACP 演者による General Session (GS), Focused Continuing Education (FCE) Course, Innovations in Periodontics (IP) Course での発表が予定されています。6 月 3 日時点で 145 名の JSP・JSCP 会員に参加登録いただき、JSP/JACP ポスターセッションに 55 題 (基礎研究 : 25, 臨床研究 : 8, 症例報告 : 19, 歯科衛生 : 3) の演題を登録していただいております。サムライナイトや Pan Pacific Session (PPS) も企画されています。また、入国がスムーズに行えるようにツアーも準備しております。

サンディエゴでお会いできる日を、楽しみにしております。

追悼 角田正健 先生



角田正健先生に3～4年前の講座OB会でお会いした折に、ご本人から「胃ガンの手術を受けた」とお聞きしました。その後しばらく角田先生とはお会いできず心配をしていたところ、日本歯周病学会事務局より令和6年2月4日にご逝去の知らせを受け、信じられない思いでした。享年78歳でした。

角田先生は、昭和46年3月に東京歯科大学を卒業後、同年4月に同大学歯学研究科入学、昭和50年3月に歯学研究科を修了、歯学博士学位受領(東京歯科大学)されました。同年4月に東京歯科大学助手(歯科保存学第二講座)、昭和51年4月東京歯科大学講師(歯科保存学第二講座)を経て、平成3年4月東京歯科大学助教授(歯科保存学第二講座)になられ、平成15年6月東京歯科大学講座外教授(歯科保存学第二講座)、平成17年4月東京歯科大学教授(総合診療科)に就任されました。平成22年に東京歯科大学を定年退職、その後東京歯科大学千葉病院臨床教授、平成元年9月北原学院千葉歯科衛生士専門学校 校長に就任されました。

日本歯周病学会では認定医委員会委員(平成6～12年)、会則委員会委員(平成9～12年)、歯科衛生士関連委員会委員(平成12～15年)、医療委員会委員(平成19～21年)、臨床研修委員会委員(平成21～23年)を歴任されています。この間の功績が認められて、平成23年には名誉会員に推挙されました。

角田先生は研究テーマである口臭系分野で、多くの歯周病の患患の悩みの「口臭」の治療に一筋の光明を差し込まれました。

角田先生は歯周病患者の口腔内臭気の主体が揮発性硫黄化合物(VSC)であることに着目され、少量の口腔内気体を分析することで口臭の程度を客観的に評価する手法を開発されました。これらの研究成果を基に、東京歯科大学千葉病院では専門外来の先陣を切って保存科内に口臭外来を開設、角田臨床教授を中心とし多

くの口臭に悩む患者の診療にあたってきました。研究室では、角田教授の下で多くの患者より採取した呼気を解析し、深夜まで大学院生と議論を交わしていたことが思い出されます。

角田先生の診療スタイルは、一貫して患者さんと向き合うことで、研究の合間を縫っては診療室に出られ、診療にあたっておられました。このように多くの患者さんを治療されていますので、種々なる歯周外科手術においてもきれいなメスの運びによる術後の治癒の美しさに驚嘆した多くの医局員がその技術を盗むようにして角田先生の周りに集まるなど、患者さん、スタッフから絶大なる信頼を受けていました。

角田先生は前述のように歯周病学会の各種委員会委員を歴任されましたが、なかでも歯周病の患者さんの診療に卓越した技術をお持ちであったため、特に認定医委員会委員を長く(6年間)務められました。会員の治療技術の向上に並々な情熱をおもちであったことに、今も感服いたします。

東京歯科大学歯周病学講座が開設して令和5年で60周年にあたるのを機会に、歯周病学講座と講座のOB会である周友会で記念誌作成と祝賀会を企画しました。祝賀会の開催にあたり、当時はコロナの感染が社会現象となっていたため、人の多く集まる集会や祝賀会は軒並み中止でした。企画を進めていたころはさらに再度感染者が増えており、大学の対応を勘案して祝賀会開催か否かの決断をせざるをえない状況でした。体調を崩されていた周友会長の角田先生は、それでも「わが講座の発展を記念すべき祝賀会です。ぜひ60周年記念祝賀会の開催を決行いたしましょう」との決意の下、祝賀会の開催を決断されました。

令和5年7月1日に、ホテルメトロポリタンエドモントで盛大に東京歯科大学歯周病学講座開設60周年記念祝賀会が挙行されました。その祝賀会終了後、顔色も悪く、痩せたお姿でしたが、会場で「山田君、今日の祝賀会は大変良かったですね」と涙ながらに会の成功を喜ばれていました。これが角田先生との最後の対面となりました。

角田先生におかれましては、学会の発展に賜りましたご尽力に心より感謝を申し上げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

東京歯科大学名誉教授・日本歯周病学会名誉会員

山田 了

第 68 回春季日本歯周病学会学術大会開催のご案内

令和 7 (2025) 年 5 月 23 日 (金), 24 日 (土) の 2 日間にわたり, 第 68 回春季日本歯周病学会学術大会を那覇文化芸術劇場なは一と, ならびにホテルコレクティブ (那覇市) において開催いたします。本大会では令和元 (2019) 年までのコロナ以前の状態と同じく, 人数制限なく希望者は全員現地参加できるように進めており, またオンデマンドでの Web プログラムも用意し, ハイブリッド開催で準備をしております。

令和 3 (2021) 年に, 那覇空港からモノレール (ゆいレール) と徒歩により 20 分程度でアクセス可能な「那覇文化芸術劇場なは一と」が開館いたしました。大劇場は約 1,600 席を備え, 那覇市内の国際通りに近いロケーションであるため, 近年, 多くの学会が本会場で開催されております。これを補う形で, 近隣のホテルコレクティブと併せての 2 会場での開催となります。会場間の移動は徒歩となり, ご不便をおかけしますが皆様のご参加を心よりお待ちしております。

さて, 本大会のメインテーマは「Science に基づいた“美ら”歯周治療」としました。歯周治療は内科的要素のみならず外科的要素を包含する, まさに Science と Art の融合領域であり, 科学的な根拠に基づきながらも審美的な結果が求められます。特に前歯部のエステティックゾーンに関しては近年, 低侵襲な外科術式が一般的となり普及も進んでおります。そこで, オハイオ州立大学歯周病科の Hsun-Liang (Albert) Chan 先生による, 顕微鏡を用いた歯周外科処置の特別講演を予定しております。また, 貴和会歯周病インプラントセンター・小野善弘先生に, 長期症例を紹介していただくとともに歯科医師人生を回顧していただく特別講演に登壇していただきます。Longevity の背景となる Science や臨床の実際に関する本講演は, 若手歯科医師にとって今後の歯科医師人生の道標となることでしょう。Science に関しましては, 骨免疫学で世界的に著名な東京大学医学部免疫学の高柳 広先生に最新の知見と歯周病学へのフィードバックをご講演いただきます。マウスなどの基礎研究を臨床につなげるトランスレーショナルリサーチは, われわれ臨床家にとって新規医薬品・医療機器開発を行ううえで必須です。ご講演からいろいろな可能性やシーズを感じ取り, 歯周病学の発展や社会実装に応用したいと考えております。さらには細胞レベルでの基礎特別講演とし

まして, 東京医科歯科大学特別荣誉教授の一條秀憲先生に, ストレス応答の破綻と疾患という視点からご講演をお願いしております。歯周病関連細胞のストレス応答は未知の研究領域でありますので, 基礎的なアプローチで研究を進めている皆様には大変刺激のある講演となることでしょう。

またシンポジウム 1 では, 歯周病の基礎研究で最先端をいく先生方に, 全身と関わりについての知見を発表していただきます。臨床テーマのシンポジウム 2 では, 歯周病患者への歯列矯正についてわが国の第一線の臨床家の先生方に登壇いただきます。さらにシンポジウム 3 では, 歯周組織の再生療法についてさまざまな分野の演者から, 最新の情報を共有いただきます。歯科衛生士シンポジウムでは, 歯周基本治療のブラッシュアップにつながる講演をいただく予定です。また, 韓国歯周病学会 (KAP) との調印式が本会期中に行われ, KAP 次期理事長の Yang-Jo Seol 先生による講演もごぞいます。

日本歯周病学会の学術大会としては, 初の沖縄県開催となります。開催時期の沖縄は 25℃ を超える気候となります。現地でご参加の際は, クールビズや, 沖縄らしい「かりゆしウェア」などの過ごしやすい服装でお越しください。沖縄の地で, 多くの皆様とお会いできますよう, ご参加を心よりお待ちしております。

大会長 岩田隆紀

1. 会期

令和 7 (2025) 年 5 月 23 日 (金), 24 日 (土)

2. 会場

1) 那覇文化芸術劇場なは一と

〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地 3 丁目 26-27

TEL: 098-861-7810

モノレールをご利用の場合: 県庁前駅から徒歩約 6 分

バスをご利用の場合: 国内線旅客ターミナル発 125 番または 120 番乗車, ホテルコレクティブ前 (旧松尾バス停) 下車徒歩約 6 分

タクシーをご利用の場合: 那覇空港より約 15 分

2) ホテルコレクティブ

〒900-0014 沖縄県那覇市松尾 2 丁目 5-7

TEL: 098-860-8366

モノレールをご利用の場合：県庁前駅から徒歩約 7 分

バスをご利用の場合：国内線旅客ターミナル発 125 番または 120 番乗車，ホテルコレクティブ前（旧松尾バス停）下車徒歩約 0 分

タクシーをご利用の場合：那覇空港より約 15 分

3. テーマ

Science に基づいた“美ら”歯周治療

4. 事前参加登録期間および参加登録費

令和 6（2024）年 12 月 2 日（月）正午より

令和 7（2025）年 3 月 31 日（月）正午まで

	事前参加登録	当日
正会員	5,000 円	8,000 円
準会員（上記以外）	3,000 円	6,000 円
非会員（歯科医師・医師）	10,000 円	13,000 円
非会員（上記以外）	5,000 円	8,000 円
学生（歯学部・専門学校生）	1,000 円	1,000 円

5. 演題申込および抄録登録期間

令和 6（2024）年 11 月 14 日（木）正午より

令和 6（2024）年 12 月 26 日（木）正午まで

登録期間終了日は，アクセス集中によるエントリー遅延，不具合が起こりやすいので，早めに登録をおすませください（登録期間以降は，受付・オンライン修正・削除はできません）。発表方法に関する詳細は，学術大会ホームページで案内予定です。演題登録時には登録サイトにて，留意事項を必ずご確認のうえ，ご応募くださいますようご案内申し上げます。

第 68 回春季日本歯周病学会学術大会 事務局
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野（2024 年 10 月 1 日より東京科学大学となります）

準備委員長：水谷幸嗣

〒113-8549 東京都文京区湯島 1-5-45

TEL：03-5803-5488 FAX：03-5803-0196

第 68 回春季日本歯周病学会学術大会 運営事務局
（株）日本旅行大阪法人営業統括部 MICE 営業部内
〒541-0051 大阪市中央区備後町 3-4-1 山口玄ビル
6 階

TEL：06-4256-3869 FAX：06-6204-1763

E-mail：jspf68@nta.co.jp

第 68 回春季日本歯周病学会学術大会臨床ポスター （認定医・専門医ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター）発表申込のご案内

学術大会における臨床ポスター（認定医・専門医ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター）発表の演題募集は，一般演題とは別になります。受付は学術大会ホームページからのみになりますのでご注意ください。以下に概要を記します。

演題申し込みおよび抄録作成方法などの詳細は学術大会 Web サイト上で公開予定です。認定医・専門医と歯科衛生士症例のポスターカテゴリーごとに必ずご確認ください。

1. 演題発表資格

いずれのカテゴリーとも，筆頭発表者が学会認定資格（認定医・専門医・指導医あるいは認定歯科衛生士）を有している必要はありませんが，筆頭発表者と発表における責任者は本学会会員に限りま。また，本学術大会における筆頭発表は 1 名 1 演題までといたしま

す。詳細は学術大会ホームページをご参照ください。

2. 演題申込および抄録登録期間

令和 6（2024）年 11 月 14 日（木）正午より

令和 6（2024）年 12 月 26 日（木）正午まで

【注意事項】

A）臨床ポスター，歯科衛生士ポスターは症例発表の場で，臨床研究の発表は認めておりません。臨床研究に該当する場合，一般演題での登録をお願いします。

B）「認定医・専門医申請における医薬品・機器の使用に関する考え方（薬機使用の考え方）」

https://www.perio.jp/member/certification/recognition/file/new/info_220602.pdf

「学術大会・臨床ポスター応募症例チェックリスト（学術大会ポスターチェックリスト）」

https://www.perio.jp/member/award/file/special/poster_checklist.pdf

を遵守いただきますようお願いいたします。



薬機使用の
考え方



ポスター
チェックリスト

C) 登録期間終了日はアクセス集中によるエントリー遅延・不具合が起こりやすいので、お早めに登録をおすすめください。

D) 演題申込時には学術大会ホームページ記載の留意事項を必ずご確認のうえ応募くださいますようお願いいたします。上記事項を逸脱する行為および演題内容については、発表をお断りすることがあります。

3. 臨床ポスター発表の特典

臨床ポスター発表を行うと、筆頭発表者に対して資格申請・更新に必要な所定の研修単位が付与されます(専門医の申請時、および認定医と専門医の更新時の生涯研修単位における業績発表単位は10単位、認定歯科衛生士の申請時・更新時の生涯研修単位における業績発表単位は10単位)。なお、感謝状の授与方法は第65回春季学術大会時より「学術大会終了後郵送」に変更となっております。

4. 臨床・症例ポスターの発表様式

パネルサイズは高さ210cm×幅90cmです。表示形式および表記様式、ポスター討論についての留意事項を学術大会ホームページにてご案内していますので

ご確認ください。演題番号の個所や顔写真の掲示場所、「同意や承認」(手術の患者同意あり、発表の患者同意あり、未承認薬等不必要の表示、利益相反状態の開示(コメント))の記載場所、ポスター討論の時間等細かく規定されていますので必ずご確認ください。印刷前にPDF形式で発表データを提出いただき、認定3委員会・大会校により、事前チェックを行います。なお、演題登録後に抄録の変更や討論時の発表者交代は認められません。問題が生じましたら運営事務局にご連絡ください。

5. ポスター賞について

認定医・専門医優秀臨床ポスター賞は選考対象となることを希望された発表が、ベストデンタルハイジニスト賞は歯科衛生士ポスター発表として演題登録いただいた発表のうち症例発表が選考対象となります(ただし、留意事項を遵守されていない場合は対象外)。受賞発表および表彰は次回学術大会(第68回秋季日本歯周病学会学術大会)にて行います。その際、受賞ポスターは再掲しますので、発表ポスターの保管(データ版・紙版とも)にご協力願います。

専門医委員会委員長 吉成伸夫

認定医委員会委員長 仲谷 寛

歯科衛生士関連委員会委員長 荒川真一

専門医・指導医・認定医および認定歯科衛生士制度についてのお知らせ

日本歯周病学会では、本年度の認定医・専門医・指導医および認定歯科衛生士の申請と更新、ならびにその研修施設および学会認定研修会の申請を受け付けます。各資格についてのタイムスケジュールは以下のとおりです。

1. 専門医・指導医申請(第72回専門医・指導医認定審査)および各資格の更新

令和6(2024)年11月11日(月):受付開始

令和6(2024)年11月29日(金):締切(消印有効)

令和7(2025)年1月17日(金):申請および更新に関する書類審査会開催

令和7(2025)年3月8日(日):(専門医申請者のみ)専門医認定試験(ケースプレゼンテーション)

口頭試問、ならびに筆記試験)開催

※第68回専門医認定審査より筆記試験が導入されました。書類審査合格通知時に詳細をご案内します。

令和7(2025)年5月22日(木):各資格申請・更新合格者を理事会で承認

令和7(2025)年5月23日(金):第68回春季学術大会(沖縄)時に合格発表

令和7(2025)年7月頃:専門医・指導医認定証発行*

※日本歯科専門医機構発行の歯周病専門医認定書は令和7(2025)年度末に行われる運用審査承認後に発行予定

2. 認定医申請(第33回認定医認定審査)および更新

令和6(2024)年12月2日(月):受付開始

令和 6 (2024) 年 12 月 20 日 (金) : 締切 (消印有効)
令和 7 (2025) 年 2 月 7 日 (金) : 申請および更新に
関する書類審査会開催

令和 7 (2025) 年 5 月 22 日 (木) : (申請者のみ) 筆記試験会場 : 沖縄県自治会館

申請・更新合格者を理事会で承認

令和 7 (2025) 年 5 月 23 日 (金) : 第 68 回春季学術
大会 (沖縄) 時に合格発表

令和 7 (2025) 年 7 月頃 : 認定医認定証発行

⇒平成 30 (2018) 年 1 月 1 日より, 新規認定医申請
の際に, 本学会が行う倫理に関する講演の受講 (1
回以上) が義務付けられました。

3. 認定歯科衛生士申請 (第 40 回認定歯科衛生士認定 審査) および更新

令和 6 (2024) 年 10 月 21 日 (月) : 受付開始

令和 6 (2024) 年 11 月 8 日 (金) : 締切 (消印有効)

令和 6 (2024) 年 12 月 8 日 (日) : 申請および更新
に関する書類審査会開催

令和 7 (2025) 年 2 月 23 日 (日) : (申請者のみ)
ケースプレゼンテーション

令和 7 (2025) 年 5 月 22 日 (木) : 申請・更新合格
者を理事会で承認

令和 7 (2025) 年 5 月 23 日 (金) : 第 68 回春季学術
大会 (沖縄) 時に合格発表

令和 7 (2025) 年 7 月頃 : 認定歯科衛生士認定証発
行・認定歯科衛生士襟章送付

以上の各資格の申請・更新手続き, 申請書類や規則

等については, 学会ホームページ (<https://www.perio.jp>) をご確認ください。ホームページに記載された
方法に準拠しない申請・更新手続きは無効となります。

なお, 規則・細則は改定されることがありますので,
ホームページにおける申請受付前 1 カ月以内の最新の
記載内容を確認してください。

研修施設申請・更新のお知らせ

認定医, 専門医の研修施設を認定する制度です。申
請・更新受付とも期間は令和 6 (2024) 年 11 月 11 日
(月)~令和 6 (2024) 年 11 月 29 日 (金) (消印有効)
です。申請・更新手続きについては, 学会ホームペー
ジ (<https://www.perio.jp>) に記載してありますので,
これに従い手続きを行ってください。

認定医, 専門医・指導医更新に関わる研修単位を取得 できる専門医委員会が認めた歯周病に関する学会およ び研修会申請についてのお知らせ

歯周病学に関する専門的研修に寄与する学会, 指導
医等主催による任意の研修会について, 研修単位取得
対象研修会として認定する制度です。申請期間は令和
6 (2024) 年 11 月 11 日 (月)~令和 6 (2024) 年 11 月
29 日 (金) (消印有効) です。手続きの方法等を学会
ホームページ (<https://www.perio.jp>) に記載しており
ますので, これに従い手続きを行ってください。令和
7 (2025) 年 8 月末頃までに専門医委員会の審査による
認定の諾否を通知いたします。

学会プロモーション活動について

国民に対する歯周病啓発活動について、進捗状況をお伝えします。

1. 国民向け新ホームページ「PerioBook」の作成

TOP ページが下記のとおり完成しました。日本歯科専門医機構より、歯周病専門医とそれ以外の資格の検索画面、資格者一覧を分離するよう指導があったことを受けて、検索画面を再構成中です。



2. 国民向け歯周病関連のPR 動画の作成

歯周病非関心者向け動画「にゃんかむちゅ〜Season3」を公開予定です。

自治体や地域の歯科医師会や歯科衛生士会における歯科に関する普及活動で「にゃんかむちゅ〜」キャラクターを使用したい、イベント会場で動画を放映したい場合は学会事務局までご相談願います。



にゃんかむちゅー
公式 YouTube
チャンネル

日本歯科専門医機構報告

現時点までの専門医に関する対応についてご報告いたします。流動的な状況もございますので、今後、取り扱い等の変更が発生する可能性があることをあらかじめご了承ください。これからも、タイムリーに情報を発信させていただきますので、会員情報の登録内容のご確認、ならびに電子メールご登録をお願いいたします。

口腔保健協会会員システム「OHASYS」

<https://ohasys.net/login>

※会員番号の確認はお手元の

会員カードをご参照ください。



1. 日本歯科専門医機構「共通研修」について

令和6(2024)年度より、専門医新規・更新の手続き

に際し、『①医療倫理、②患者・医療者関係の構築、③医療安全、④院内感染対策、⑤医療関連法規・医療経済』の受講歴が各1単位以上かつ、5項目を含む共通研修単位を毎年度2単位、計10単位取得の義務付けが本施行となります。

専門医(含む、指導医)新規・更新手続きに際しては、学会ホームページに掲載しているフローチャートを利用し、現時点のご自身の共通研修単位をご確認ください。

専門医「共通研修」確認用フロー
チャート(新規・更新共通)

https://www.perio.jp/member/certification/special/application_jdsb.shtml



本学会では会員負担を考慮し、春季・秋季学術大会内で「共通研修」に認定された講演を実施し、本学会学術大会への参加（現地・オンライン問わず）のみでカリキュラムを満たせるよう講演プログラムを編成しております。今後は、以下を開催予定です。

- 第 67 回秋季学術大会：①医療倫理（倫理委員会企画講演）、②患者・医療者関係の構築（大会校企画講演）、⑤医療関連法規・医療経済（大会校企画講演）
- 第 68 回春季学術大会：医療安全委員会企画講演、ならびに大会校企画講演を予定

専門医資格の取得および更新をお考えの先生におかれましては、必要とされる「共通研修」の単位を確実に取得するために、各学術大会へ参加（Web 参加も可能）のうえ、共通研修を受講してください。

また、2020～2023 年度の共通研修受講単位不足者への対応ですが、本年 3 月に日本歯科専門医機構より、同機構が主催した過年度分共通研修をオンデマンド方式で再開する旨、アナウンスがありましたことを受けて、口腔保健協会会員管理システム「OHASYS」による電子メール配信で会員各位にご案内しております。不足がある歯周病専門医、ならびに取得予定者におかれましては、今回が最終開催となりますので、受講漏れがないようご注意ください。

2. 専門医の認定証発行について

2019 年度以降に新規・更新認定されました専門医の先生方には、日本歯科専門医機構より「歯周病専門医認定証」（機構認定証）が送付されます。

日本歯科専門医機構から発行された認定証の内容に関する質問は、日本歯周病学会事務局までご連絡くだ

さい。

3. 令和 6（2024）年度以降における機構認証に関わる受益者負担（経費負担）について

令和 6（2024）年度以降の専門医新規申請・更新料/登録料に日本歯科専門医機構審査料として 11,000 円を上乗せし、受益者負担となっております。

4. 新規認定資格合格者の掲示について

令和 4（2022）年度の運用審査にて機構より、新規認定資格合格者の掲示を国民向けにも行うよう指導がなされました。従来の学術大会会場で掲示されている合格者リストを、日本歯科専門医機構における運用審査終了後に、学会ホームページ内「ピックアップ」にて公開しております。

5. 日本歯周病学会認定「歯周病専門医」記載終了時期について

日本歯科専門医機構の基本領域に対応する 5 つの学会認定専門医について、当面の間に限り広告を認めるとしていた経過措置を令和 10（2028）年度末で終了する旨、本年 3 月 29 日付で厚生労働省より発出されました。現行の歯周病専門医における広告標榜は令和 11（2029）年度以降、【日本歯科専門医機構認定歯周病専門医】のみとなり、【日本歯周病学会認定歯周病専門医】という記載は不可となりますのでご注意ください。

6. その他

機構より、専門医研修施設の新規申請・更新時における指導医の勤務実態・診療実績、所属研修生の状況の提示が今後求められる可能性があります。その対応に関しては、申請・更新施設になるべくご負担にならない方法を本学会内で引き続き検討中です。

令和 6（2024）年度 秋季総会について

秋季総会は以下日時で開催予定です。従来、抄録集へ総会開催通知兼委任状のハガキを綴込していましたが、信書に該当する恐れがあることから、令和 5（2023）年度秋季総会より抄録集への同ハガキ綴じ込みを見合わせ、フォームによる回答方式に変更しました。

参加人数の把握のため、出欠を事前に回答願います。

回答フォームは 9 月 19 日（木）頃より受付開始予定です。詳細は口腔保健協会会員管理システム「OHA-

SYS」による電子メール配信でご案内いたします。

日時 10 月 4 日（金）10：50（予定）

場所 札幌コンベンションセンター

大ホール A・B

議事事項：庶務報告、会計報告、各種
委員会報告、その他
総会終了後、各賞表彰式実施



回答フォーム

各賞および奨学金助成募集のご案内

各賞および企画の募集を下記のとおり行います。いずれも学会ホームページにて詳細をご確認ください。

1. 日本歯周病学会奨励賞 (Hu-Friedy Award) (令和6 (2024) 年度)

令和5 (2023) 年度実績：採択数3/応募数5

奨励賞は、歯周病学の発展に寄与する学術論文を発表した若手研究者を表彰するために、本学会名誉会員 見明 清 東京歯科大学名誉教授の寄付金を基金として、平成7 (1995) 年に設けられました。ヒューフレディ株式会社のスポンサーシップを得ており、本賞(奨励賞楯)のほかに副賞 Hu-Friedy Award(賞金3万円、クリスタルトロフィーならびに同社製品)が贈られます。4名以内が選考されますので、学会ホームページの応募資格をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、ホームページ上で受け付けます。



<https://www.perio.jp/member/award/encouragement.shtml>

申請期間：令和6 (2024) 年

11月1日 (金)～12月13日 (金)

申請書類提出用 ID：JSP-2024

2. 日本歯周病学会教育賞 (取組み部門：Ishiyaku Award, コンテンツ部門：YDM Award) (令和6 (2024) 年度)

令和5 (2023) 年度実績：取組み部門 採択数1/応募数3, コンテンツ部門 採択数1/応募数4

教育賞は、歯周病学教育の発展に寄与した取組み、ならびにコンテンツを表彰することを目的としております。表彰対象は歯周病学の教育の発展に寄与する取組み、ならびにコンテンツです。応募資格は取組み、ならびにコンテンツ代表者が本学会の会員であること、過去に本賞を受けたことがないことが条件です。なお、本賞は副賞として医歯薬出版株式会社、ならびに YDM 株式会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞(表彰状)のほかに、副賞 Ishiyaku Award, ならびに YDM Award (各賞金5万円)が贈られます。学会ホームページの応募要項をご確認のう



え、奮ってご応募ください。本賞の応募は、郵送で受け付けます。

<https://www.perio.jp/member/award/education.shtml>

申請期間：令和6 (2024) 年

11月1日 (金)～12月13日 (金)

※消印有効

3. 奨学金助成 (令和6 (2024) 年度募集 令和7 (2025) 年度実施)

令和5 (2023) 年度実績：採択数0/応募数0

日本歯周病学会は、次世代の歯周病学研究の質の向上を支援するために、若手研究者に対する奨学金助成を行います。本奨学金は、本学会が平成23 (2011) 年度から基金として準備し、平成25 (2013) 年度に設置されたものです。助成者は、申請者から2名以内(1件の上限は100万円)が選考されます。応募の条件が定められていますので、学会ホームページの規程をご一読のうえ、若手研究者の皆様には奮ってご応募ください。本賞の応募は、ホームページ上で受け付けます。



<https://www.perio.jp/member/award/scholarship.shtml>

申請期間：令和6 (2024) 年

11月1日 (金)～12月13日 (金)

申請書類提出用 ID：JSP-2024

4. Young Investigator Award (SUNSTAR Award) (令和7 (2025) 年度)

令和5 (2023) 年度実績：採択数2/応募数4

本賞は、学術大会発表において優れた研究を発表した若手研究者を表彰することを目的としております。表彰対象は、本学会当該年度の日本歯周病学会 Young Investigator Award に応募し、学術大会に発表された口頭発表とします。本賞は副賞としてサンスタース株式会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞 (Young Investigator Award 楯) のほかに、副賞 SUNSTAR Award (賞金5万円と記念品) が贈られます。応募の条件が規定されていますので、学会ホー



ホームページの応募資格(申請期間開始日までに掲載予定)をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、ホームページ上で受け付けます。

<https://www.perio.jp/member/award/young.shtml>

申請期間：令和7(2025)年

2月3日(月)～3月7日(金)

申請書類提出用ID：JSP-2025

5. 日本歯周病学会地域活動賞(令和7(2025)年度)

令和5(2023)年度実績：採択数1/応募数2

本賞は、歯周病の予防・治療を通して、地域住民の健康増進に寄与した優れた活動業績を上げられた団体を表彰することを目的としております。表彰対象は地域社会の歯科保健、特に歯周病治療の向上に優れた功績のあった団体です。応募の条件が定められていますので、学会ホームページの規程をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、郵送で受け付けます。



<https://www.perio.jp/member/award/regional.shtml>

申請期間：令和7(2025)年

2月3日(月)～5月31日(土)

※消印有効

6. 日本歯周病学会歯周組織再生医学優秀発表賞(KAKEN Award)(令和7(2025)年度春季学術大会発表)

令和5(2023)年度実績：採択数2/応募数4(第66回秋季学術大会発表)

本賞は、日本歯周病学会各学術大会においてポスター発表された歯周組織再生に関する優れた研究(臨床・基礎は問わない)および筆頭演者を表彰することを



目的とし、令和5(2023)年度に創設されました。本賞は副賞として科研製薬株式会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞(歯周組織再生医学優秀発表賞楯)のほかに、副賞 KAKEN Award(賞金5万円)が贈られます。学会ホームページの応募資格をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、ホームページ上で受け付けます。

<https://www.perio.jp/member/award/presentation.shtml>

申請期間：令和6(2024)年

11月1日(金)～12月27日(金)

申請書類提出用ID：JSP-2025

7. 日本歯周病学会歯周組織再生医学優秀論文賞(KAKEN Award)(令和6(2024)年度)

令和5(2023)年度実績：採択数2/応募数3

本賞は、本賞募集前年1～12月に掲載、あるいはアクセプトされた歯周組織再生に関する論文(臨床・基礎は問わず、幹細胞研究等も対象)および著者を表彰することを目的とし、令和5(2023)年度に創設されました。本賞は副賞として科研製薬株式会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞(歯周組織再生医学優秀論文賞楯)のほかに、副賞 KAKEN Award(賞金10万円)が贈られます。学会ホームページの応募資格をご確認のうえ、奮ってご応募ください。本賞の応募は、ホームページ上で受け付けます。



<https://www.perio.jp/member/award/paper.shtml>

申請期間：令和7(2025)年

2月3日(月)～3月7日(金)

申請書類提出用ID：JSP-2024

歯科衛生士教育講演のご案内

今後の開催予定

詳細はホームページで通知いたします。

<https://www.perio.jp/member/>



申込フォーム

〔山形県〕

日時：令和6（2024）年10月20日（日）10:00～16:10

会場：山形テルサ（山形市）

定員：50名

参加費：日本歯周病学会会員および

日本歯科衛生士会会員 1,000円

同会員外 5,000円

申込期限：9月22日（日）まで（先着順、定員になり次第締切）

参加方法：事前登録制です。上記QRコードより申込フォームに入り、ご登録をお願いいたします。

臨床研修会のご案内・開催報告

今後の開催予定

詳細はホームページで通知いたします。

<https://www.perio.jp/member/>



申込フォーム

第6回東北地区（青森）臨床研修会

日時：令和6（2024）年9月28日（土）

13:30～17:40

会場：青森県歯科医師会館（青森市）

参加費：無料

申込期限：9月14日（土）まで（先着順、定員になり次第締切）

参加方法：事前登録制です。上記QRコードより申込フォームに入り、ご登録をお願いいたします。

第5回信越・北陸地区臨床研修会開催報告

令和6（2024）年3月24日、福井県福井市において第5回日本歯周病学会信越・北陸地区臨床研修会を開催いたしました。

今回の臨床研修会は、福井県歯科医師会との共催により「歯周病の診断・治療のアップデート—国民皆歯科健診を控えて—」をテーマとして開催されました。いわゆる国民皆歯科健診の開始後に予想される歯周病患者さんの来院増加を前に、歯周治療の基本の確認とアップデートの機会として、3つの教育講演、歯科衛生士教育講演、ランチョンセミナーを企画し、計5名の先生方から講演をいただきました。研修会当日は福井県内のみならず、北陸近県および関西地区からの

参加があり、歯科医師46名、歯科衛生士44名、歯学部学生1名の計91名にご参加をいただきました。

ご参加の皆様、福井県歯科医師会の皆様、ご協賛をいただきました企業各社様、ご関係の各所に心より感謝申し上げます。

今後も全国各地で年度ごとに2回の臨床研修会開催を計画しております。詳細は決定次第、ホームページにて通知いたします。

新潟大学大学院医歯学総合研究科
歯周診断・再建学分野
多部田康一

各賞・助成選考結果

各賞・助成の概要につきましては、学会ホームページに掲載しております。なお対象者および受賞者の所属は、選考・受賞時のものです。

学会賞 (SUNSTAR Award)

小方頼昌

(日本大学松戸歯学部歯周治療学講座・教授)



坂上竜資

(福岡歯科大学口腔治療学講座歯周病学分野・教授)



中川種昭

(慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室・教授)



奨励賞 (Hu-Friedy Award)

青木 司

(九州大学病院歯周病科)
「Inhibition of non-canonical NF- κ B signaling suppresses periodontal inflammation and bone loss」



園田怜美

(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野)
「Reduced Autophagy in Aged Trigeminal Neurons Causes Amyloid β Diffusion」



森本 慎

(広島大学大学院医系科学研究科歯周病態学研究室)
「A Cartilaginous Construct with Bone Collar Exerts Bone-Regenerative Property Via Rapid Endochondral Ossification」



教育賞

取組み部門 (Ishiyaku Award)

青山典生

(神奈川歯科大学歯学部臨床科学系歯科保存学講座歯周病学分野)
「神奈川歯科大学附属病院でのハブラシコンセイエ®認定による教育効果」



コンテンツ部門 (YDM Award)

小渕健二郎

(大阪歯科大学歯学部歯周病学講座／大阪・医療法人裕和会タキノ歯科医院ペリオインプラントオフィス)
「天然歯における遊離歯肉移植術のポイント」



優秀臨床ポスター賞 (Quintessence Award)

最優秀賞ポスター賞

三上理沙子

(東京医科歯科大学大学院医
歯学総合研究科歯周病学分
野)

「乳癌既往歴から歯肉癌が疑
われた根尖付近まで至る重度
歯肉退縮に対して根面被覆術
と歯根端切除術を行った一症
例」



優秀賞ポスター賞

小塚義夫

(愛知・つゆくさ歯科医院)

「自家歯牙移植を併用した重
度歯周炎の一症例」



ベストデンタルハイジニスト賞 (TAKARA BELMONT Award)

関戸由記子

(長野・医療法人一梅会 池田
歯科医院)

「広汎型慢性歯周炎に罹患し
た若年者に対して包括的治療
を行った5年経過症例」



研究者育成ファンド

該当者なし

Young Investigator Award (SUNSTAR Award)

岩下瑞穂

(大阪大学歯学部附属病院総
合診療科)

「Plap-1 によるセメント芽細
胞分化制御」



永田千晶

(岡山大学大学院医歯薬学総
合研究科歯周病態学分野)

「不妊病態の構築に *Porphyro-
monas gingivalis* 感染を伴
う歯周炎症が及ぼす影響の検
討—不妊治療中患者血清と絹
糸結紮歯周炎マウスモデルを
用いた解析—」



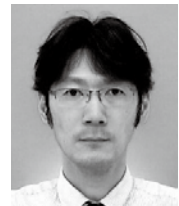
歯周組織再生医学優秀発表賞 (KAKEN Award)

第 66 回秋季学術大会発表

岩崎剣吾

(大阪歯科大学医療イノベー
ション研究推進機構先進医療
研究センター創生統合医療部
門)

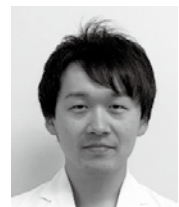
「間葉系幹細胞由来タンパク
抽出物による新規歯周組織再
生治療」



都野隆博

(新潟大学医歯学総合病院高
度医療開発センター)

「シングルセル遺伝子発現解
析によるヒト培養骨膜細胞
シートの骨形成評価」



企画調査研究助成終了報告

抗凝固剤内服中患者の歯周病治療の安全性と有効性に関する疫学的研究

應原一久（広島大学大学院医系科学研究科 歯周病態学研究室）

【背景】歯周病は歯周局所の慢性炎症で歯周組織の破壊をきたすだけでなく、心疾患、糖尿病、関節リウマチ、早産、動脈硬化等に影響することが報告されている。申請者らの研究グループは、不整脈による心房細動と *Porphyromonas gingivalis* (Pg) 感染に着目し研究を行ってきた。不整脈の原因として、遺伝的因子と、心疾患（心筋梗塞および心筋症）、ストレス、喫煙とともに、頻脈性不整脈の患者血清と Pg の反応性を検討した結果、頻脈性不整脈の再発と *Pg fimA* 遺伝子の type に相関があることが判明した。そこで、現在コホート研究として、不整脈治療の一つであるカテーテルアブレーション（CA）手術を行う患者の術前の歯周病状態を精査し、歯周病治療後に CA 手術を行った場合の不整脈再発率に関して疫学的に検討中である（目標患者は 600 名の予定）。対象患者は全身性塞栓症予防のため経口抗凝固薬を内服し、PT-INR 2.0～3.0 で厳密に管理されている。これらの患者は易出血性であり、歯周組織検査でも容易に出血することが知られている。これまで易出血性患者に対する歯科治療のガイドラインは、抜歯時における基準として、日本有病者歯科医療学会、日本口腔外科学会、日本老年歯科医学会が 2020 年に作成しているものの、歯周病治療に焦点を当てたガイドラインは作成されていないため、

易出血性患者に対する歯周病治療に着目した。

【方法】研究計画を説明し、同意を得られた広島大学病院循環器内科において CA 手術予定で、経口抗凝固薬内服中の患者 600 名を対象とした。採取試料は最大ポケット部位のブラーク、血清とした。臨床評価項目としては、PISA、血液一般検査、PT-INR、経口抗凝固薬内服状況とした。対象患者は CA 手術前に口腔内精査を行い、縁上ディプラーキングを行った。また術後 3 カ月以内に SRP を終了させ、PISA（Periodontal Inflamed Surface Area）、PESA（Periodontal Epithelial Surface Area）を測定した。また血清中の歯周病原細菌に対する血清抗体価と炎症性サイトカイン量の測定を行った。

【結果】現在、無歯顎を除く患者 305 名（男性 198 名、女性 107 名、平均年齢 67.93 ± 10.65 歳）の初診時口腔内診査と CA 手術が終了している。初診時の PESA は $1,255.09 \pm 471.19 \text{ mm}^2$ 、PISA は $440.92 \pm 349.96 \text{ mm}^2$ であった。また、Pg 33277 株に対する血清抗体価が健常者より 3 SD 以上高かった患者が 177 名であった。今後、SRP 終了後の PESA、PISA を測定、解析予定である。申請者等の先行研究の結果から、歯周炎治療が心房細動の再発を抑制するということが明らかになっており、歯周炎非治療群との比較も行っていく予定である。本研究成果に関しては、経口抗凝固薬内服中患者の歯周病治療に対するリスクと歯周病治療有効性を疫学的に検討し、歯周病治療におけるガイドライン作成に寄与すると考える。また、第 68 回春季日本歯周病学会学術大会で発表予定である。

第 67 回春季日本歯周病学会学術大会「若手研究者の集い」開催報告

第 67 回春季日本歯周病学会学術大会にて「若手研究者の集い」を開催しましたので、報告させていただきます。新型コロナウイルスも 5 類に移行し、学術大会も以前の形式に戻ったことから、今回は学術大会前日の令和 6 年 5 月 23 日にビッグアイ（郡山市民プラザ）を会場として現地開催しました。

これまでの「若手研究者の集い」でも歯周病研究以

外のさまざまな分野から講師をお招きしていましたが、今回は歯学部出身で口腔組織学と肉眼解剖学を専門とされておられる岡山大学の寺町順平先生にご講演いただきました。寺町先生は 2004 年に徳島大学歯学部を卒業後、九州大学大学院で口腔外科学を専攻され、博士の学位を取得後、徳島大学に戻られ口腔組織学分野で破骨細胞を中心に骨代謝の研究をされました。そ

の後、研究留学のため渡米され、G. David Roodman 教授の御指導の下、2010～2011 年ピッツバーグ大学医学部、2011～2012 年インディアナ大学医学部で、多発性骨髄腫や骨パジェット病を標的疾患として破骨細胞制御の研究をされました。帰国後は徳島大学に戻られて破骨細胞の研究を進めるとともに、口腔組織学のみならず肉眼解剖学の講義・実習にも携わられました。2020 年からは岡山大学学術研究院医歯薬学域口腔機能解剖学に異動され、准教授として骨代謝研究と解剖学教育の両方でご活躍中です。

今回のご講演は大きく前半と後半に分かれ、前半のパートでは骨髄腫細胞において Proviral Integrations of Moloney virus 2 (PIM2) キナーゼや TGF- β activated kinase-1 (TAK1) が破骨細胞の形成や生存・活性化に大きく関与し、それらの阻害剤が炎症と骨破壊の両方を抑制できる画期的な治療薬となり、現在開発に取り組んでおられることを説明されました。そしてご自身の現在までの研究の流れを、米国留学でのご経験を交えながらふり返り、研究活動の継続がいかに大切か話されました。後半のパートでは現在携われておられる解剖学実習での取り組みについてご講演いただきました。岡山大学では従来の解剖学実習とは異なり臨床に即した手法で剖検し、学生の興味を引き出すさまざまな工夫と取り組みを行っていることを話されました。またご自身のご経験から、研究者同士の横のつながりの大切さと「利他の精神」が、自身の研究の幅を広げて良い研究成果をもたらすことを話され、今回参加された若手研究者にとって大変参考になったのではないかと思います。寺町先生の今後のさらなるご活躍を祈念いたします。

最後に、第 67 回春季日本歯周病学会学術大会「若手研究者の集い」に参加していただきました先生方に厚



くお礼申し上げます。これからの日本歯周病学会を支えていく未来の研究者が交流し飛躍する機会として、この集いがさらに発展していきますことを心より祈念いたします。

徳島大学大学院医歯薬学研究部歯周歯内治療学分野

湯本浩通

稲垣裕司

日本歯周病学会会誌のご案内

前回のニュースレター以降、日本歯周病学会会誌に掲載されました論文をご紹介します。日本歯周病学会会誌は 2015 年よりオンライン化され、J-STAGE で閲覧できます。また、発行に合わせてメールアラートを配信しておりますので、学会にメールアドレスを登録されていない会員各位におかれましては、本学会ホー

ムページよりご登録をお願いします。

日本歯周病学会会誌

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/period/-char/ja>



日本歯周病学会会誌 Vol. 66 (2024) No. 1

• ミニレビュー

「歯肉幹細胞由来細胞外小胞を利用した歯周炎治療戦略」

福田隆男, 西村英紀

「歯周病と骨粗鬆症のクロストーク」

宇田川信之, 小出雅則, 中村美どり, 田口 明, 吉成伸夫

• 原著

「歯周炎新分類 (AAP/EFP2018) のステージとグレードは菌種で異なる—5 年間の臨床研究結果より—」

茂手木義男, 濱島秀徳, 華岡眞幸, 岡本行人, 三澤一男, 谷 博一, 岡田菜穂子, 宮澤 康, 櫻井千里, 高木智幸

「*Porphyromonas gingivalis* リボ多糖は Toll-like receptor 2 および 4 を介して好中球細胞外トラップを発現する」

酒寄智央, 伊藤 弘, 沼部幸博

• 歯科衛生士コーナー

「日本歯周病学会以外の認定歯科衛生士制度について」

野村正子, 柏井伸子, 立澤敦子, 須山弘子

日本歯周病学会会誌 Vol. 66 (2024) No. 2

• 総説

「糖尿病および慢性腎臓病と歯周病の関連におけるメカニズムの解析と歯周治療への応用」

水谷幸嗣

• ミニレビュー

「健康日本 21 (第三次) に向けた生活習慣改善による歯周病のケアについて」

坂上竜資, 吉永泰周, 金子高士, 永井 淳

「歯周炎と動脈硬化性疾患の関連: 最近の知見」

中島貴子, 山崎和久

• トピック紹介

「習慣性咀嚼側に生じる咬合性ストレスの影響」

内田剛也

• 調査・報告

「日本歯周病学会会員の禁煙支援の現状とその関連要因」

谷口 凜, 稲垣幸司, 中山洋平, 五十嵐寛子, 大森みさき, 柳田 学, 埴岡 隆, 内藤 徹, 森田 学, 小方頼昌, 沼部幸博

編 集 後 記

広報委員会は、1998 年頃にホームページ等の運営から始まり、2001 年には当時委員長の大阪歯科大学・田中昭男先生のご主導で看板 URL「perio.jp」をゲットし、現在にいたります。研修実績を記録・閲覧するシステム整備も進捗しています。学術大会に参加される際には、カード忘れ対策として、スマホに QR コード画像を準備いただくようお勧めいたします。

この広報委員会に当方を送り込んだ東北大学名誉教授・堀内 博先生が、去る 7 月に逝去されました。堀内先生のご業績は枚挙に暇がありませんが、当方の専門であるエックス線透視診断領域に限っても、1980 年代、銀塩フィルム写真主流の折、画像解像度向上と低被ばくをめざし、マイクロビームエックス線による電子受線システムを開発されました。今世紀に入り、エックス線写真はほぼ電子受線に置き換わり被ばく線量は減少、2010 年代には歯科用コーンビーム CT が普及、近年はトモシンセシスによるパノラマ撮影の高解像度技術が確立し、センサーやフィルムを口内に挿入する時代も終焉に向かいつつあります。2022 年 6 月、独シーメンスのフォトンカウンティング CT (PCD-CT) が国内リリース、エックス線像解像度の飛躍的向上と低線量化が実現しました。PCD-CT はエックス線透過厚さの少ない部位ほど被ばく抑制効果が高く、頭頸部撮影では線量が従来比の 1/3 になります。現在のエックス線電子受線は、エックス線をシンチレータで可視光に変換したのち CCD で検知する間接蓄積法がほとんどで、これが透視撮影の低線量化と高解像度化を阻んでいました。しかし国内メーカーがエックス線フォトン直接検波する化合物半導体を実用化、そのセンサーを搭載したのが上述の PCD-CT です。

堀内先生は 20 年以上前から PCD の実用化をめざし、晩年までご研究を進められました。その技術の流れは今、さらなる低線量、高解像度の歯科用エックス線診断装置として具現化しつつあり、まさしく、沼部理事長が提唱された「継承」と「挑戦」の意義を肌身で感じます。僭越ながら、先人の英知を継承しつつ絶え間なく進歩に挑戦することが、当方のような老兵であろうとも、使命と思います。皆様の末永いご発展、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(広報委員会委員 石幡浩志)